

# 薬学人によるピア・レビューは 何をを目指すべきか

—第2期薬学教育評価のVision—

薬学教育評価機構 第2期第三者評価に関する説明会  
2021年3月（説明ビデオ）

薬学教育評価機構アドバイザー  
6年制薬学教育制度調査検討委員会委員  
（名古屋市立大学 高等教育院）

山田 勉

# 目次

- 1 なぜ「資質・能力」か  
臨床に強い、チーム医療を担える薬剤師の育成
- 2 なぜ「3ポリシー」か（内部質保証）  
資質・能力を身につける学位プログラムの最適化
- 3 なぜ「形成的評価」か（外部質保証）  
完成度Checkではなく薬学人による相互支援を

# 目次

- 1 なぜ「資質・能力」か  
臨床に強い、チーム医療を担える薬剤師の育成
- 2 なぜ「3ポリシー」か（内部質保証）  
資質・能力を身につける学位プログラムの最適化
- 3 なぜ「形成的評価」か（外部質保証）  
完成度Checkではなく薬学人による相互支援を

# たとえば医学部では…

（医学教育モデル・コア・コンピテンシー 初版）

全国医学部長病院長会議 AJMC

### 医学教育モデル・コア・コンピテンシー（初版）

1. プロフェッショナリズム 心身の健康を維持し、患者の安全を確保し、公衆衛生の向上に貢献する。 1)	5. チーム医療の実践 チーム医療の重要性を理解し、チーム医療に貢献する。 1)
2. 医学知識と問題対応能力 基礎医学、臨床医学、公衆衛生学、薬学、看護学、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、歯学、獣医学、保健医療福祉学、工学、農学、芸術学、人文社会科学等に関する知識を習得し、問題に対応する。 1)	6. 医療の質と安全の管理 医療の質と安全の管理を理解し、医療の質と安全の管理に貢献する。 1)
3. 診療技能と患者ケア 診療技能を習得し、患者ケアに貢献する。 1)	7. 社会における医療の実践 社会における医療の実践を理解し、社会における医療の実践に貢献する。 1)
4. コミュニケーション能力 コミュニケーション能力を習得し、コミュニケーション能力に貢献する。 1)	8. 科学的探究 科学的探究を理解し、科学的探究に貢献する。 1)
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 生涯にわたって共に学ぶ姿勢を理解し、生涯にわたって共に学ぶ姿勢に貢献する。 1)	

（https://www.ajmc.jp/pdf/AJMC311-6.pdf）

- 1. プロフェッショナリズム
- 2. 医学知識と問題対応能力（伝統的医学教育）
- 3. 診療技能と患者ケア
- 4. コミュニケーション能力
- 5. チーム医療の実践
- 6. 医療の質と安全の管理
- 7. 社会における医療の実践
- 8. 科学的探究
- 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

※ただし、少なくとも表現上は、資質・能力とは言い難いものが混在している。

# プロフェッショナリズムはなぜ必要か

## アンプロフェッショナルな行動

- ・欠席・遅刻するなど責任感がない(計画的遅刻)
- ・他者から指摘を受けても改善しようとしめない
- ・未熟である(精神面・態度)
- ・やる気がない
- ・他の学生・教員との人間関係に問題がある
- ・他職種との人間関係に問題がある
- ・患者やその家族との人間関係に問題がある
- ・不安や緊張に伴いアンプロな行動をとる

## 医療人としての資質・態度の問題

Papadakis MA, Teherani A, Banach MA, Kneetler TR, Rattner SL, Stern DT, et al. Disciplinary action by medical boards and prior behavior in medical schools. *N Engl J Med*. 2009;361(25):2397-302. (一部要約)  
 出典: 第49回日本医学教育学会大会シンポジウム「アンプロフェッショナルな行動への対応」(2017年8月19日)

## 医療系学生・医療専門職によるインターネット上のモラルハザード事例

身分	分類	年齢	事例内容	媒介	措置
医学生	不正行為	不明	大学に忍び込み、試験問題をスマホで撮影し、同級生にメールで送信	電子メール	停学
医師	悪ふざけ	不明	エボラ出血熱に関するタジヤレを書き込んだ	フェイスブック	不明
薬学部生	誹謗中傷	不明	電車内で撮影した男女の写真を「とっておきの汚い枚」と題してアップロードした	ツイッター	不明
医学生	悪ふざけ	不明	線路に立ち上がった様子の写真をアップロード	ツイッター	不明

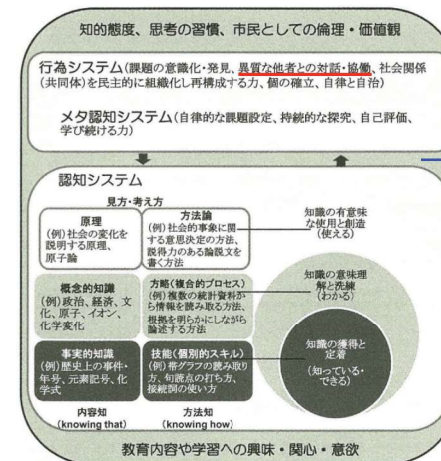
## 日常の不適切行為も問題視

講井 祥か (2016) 医療系学生・医療専門職が起こしたインターネット上のモラルハザード事例. *医学教育*, 47(3): 185-187  
 (すぎうら, 2019)

「医師や看護師のように「専門職」として確立した「専門家」には、次の六つの特徴があります。第一に、その職業の目的が私的利害ではなく公共的な福利に捧げられていることです。…第三に、専門領域における自律性と自由を保障されていることです。…そして第六に、独自の倫理綱領をもち専門家協会において倫理的責任を自己管理していることです。」(佐藤, 2013, p. 168)

# 資質・能力の2重の階層性

(医療専門職に求められる資質・能力)



※人格の深部を総合的評価の対象とすることは慎重であるべき。

※非認知的能力の育成について、確定的なことはまだわかっていない。細かな成績評価にもなじまない。

「非認知的」能力

スキルの比重が大きい教科

「認知的」能力

※方法知のなかに、認知とは異なる行為システムの要素が「混入」。

内容重視型の教科

※内容知と方法知を、どのようにレベルアップしていくのか。

教科内容(知識)のタイプ分け めざす学力・学習の質  
 (出典: 石井, 2015, p.22 図3の一部を抜粋)

# 目次

- 1 なぜ「資質・能力」か  
臨床に強い、チーム医療を担える薬剤師の育成
- 2 なぜ「3ポリシー」か(内部質保証)  
資質・能力を身につける学位プログラムの最適化
- 3 なぜ「形成的評価」か(外部質保証)  
完成度Checkではなく薬学人による相互支援を

# 内部質保証と薬学教育評価基準

- 学修者本意の教育 (資質・能力を身につける観点からの学位プログラムの最適化) 『教学マネジメント指針』
- 学修成果の評価【基準 3-3-1】 (ラーニング・アウトカム重視) 『3ポリシーガイドライン』
- 一貫性のある三つの方針の策定・公表・運用【基準 3-1-1】【基準 3-2-1】【基準 4-1】 (「仕様書」によるプロセスの一貫性)
- 内部質保証システムの構築【基準 2-1】【基準 2-2】 (組織的なマネジメントとその仕組みの構築)

## 三つの方針の一体的な策定と運用

ディプロマ・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 内容と方略の決定      体系性と科目の順次性のチェック
アドミッション・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」※）についてどのような成果を求めるかを示すもの。 ※(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力等の能力、(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 アセスメントは、プログラム改善のため

(中央教育審議会大学分科会大学教育部会, 2016, p.3)

## 3ポリシーと基準・観点

- ・ 教育研究上の目的【基準 1-1】に基づく、
  - ・ 一貫性・整合性のある三つの方針の策定と公表【基準 1-2】
- ・ DP: 資質・能力の具体的設定【観点 1-2-1】
- ・ CP: DPを踏まえた、
  - ・ カリキュラム編成【観点 1-2-2】→【基準 3-1-1】
  - ・ カリキュラムにおける教育内容・方法【観点 1-2-2】→【基準 3-2-1～5】
  - ・ 学修成果の評価の在り方【観点 1-2-2】→【基準 3-3-1】
- ・ AP: DP・CPを踏まえた、
  - ・ どのような学生を求め、多様な学生をどのように評価・選抜するか等の具体的設定【観点 1-2-4】→【基準 4-1】

※【観点 3-1-1-2】薬学教育カリキュラムが、薬学共用試験や薬剤師国家試験の合格率の向上のみを目指した編成になっていないこと。…は、やはり必要と言わざるをえない。

## 目次

- 1 なぜ「資質・能力」か  
臨床に強い、チーム医療を担える薬剤師の育成
- 2 なぜ「3ポリシー」か（内部質保証）  
資質・能力を身につける学位プログラムの最適化
- 3 なぜ「形成的評価」か（外部質保証）  
完成度Checkではなく薬学人による相互支援を

## だから、第2期 薬学教育評価は…

（評価者研修レジメより）

- ・ 皆さんが、これから創るもの
  - ・ 今回の研修内容で「確定」ではない。
- ・ 理想の実現を目指した営み
  - ・ 今すぐ実現はしない。現場の状況を見ながら、7年後の着地点を考えて、評価する。
- ・ 形成的評価が中心
  - ・ 薬学教育プログラムの完成度チェックではなく、支援をまず考える。



But how !?

# 推論のはしご

(評価者研修レジメより)



- 人々は、自ら情報に意味を付与して、何らかの推論の結果を正しい意見として提示して、相手を支配しようとする。しかし、**行為の受け手には、なぜその推論が正しいのかが不明**であるため、提示された意見に対して防衛的になる。
- そのことに気づいた行為者は、**相手を一方的に傷つけないように振る舞う**が、結論に至った推論プロセスが不明な、あるいは欠落しているフィードバックでは、建設的な対話を生み出すことは困難である。
- 建設的な対話をする人々は、自然に第一段、第二段の情報を開示して、自らの推論のプロセスと結果を相手と共に検証しようとする。**相手を支配して勝つことが目的ではなく、お互いが当事者としてコミットできるような行動を生み出すことが目的**だからである。

(Argyris,1982)

13

# まとめにかえて

(第6回 日本薬学教育学会大会テーマ)

## 「今に挑戦する薬学教育—ニューノーマル時代の学び—」

…薬剤師として必要不可欠な知識、技能に加え、医療人としての心と態度を身に付け、高い志と幅広い視野を持ち、これからの医療を担う医療チームの一員として、国民の健康な生活を確保する薬剤師、ファーマシスト・サイエンティストとして活躍できる薬剤師、さらに薬学教育者・研究者等を輩出し続けるため、**コロナ禍の今、新たな学びの形を創造していく必要があると考えます**。そこで、環境の変化に挑戦していくことへの願い、期待を込めたテーマとさせていただきます。…

(灘井, 2020)

「早く行きたければ一人で進め、速くまで行きたければ、みんなで進め」

ということわざがあるそうです。

今年の大会テーマ通り、薬学教育にはその価値があると思います。

**薬学人による建設的なピア・レビューを期待しております。**

14

# 参考文献

- Argyris, C. (1982). *Reasoning, learning, and action: Individual and organizational*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.
- 中央教育審議会大学分科会大学教育部会 (2016). 「卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)」、 「教育課程編成・実施の方針」 (カリキュラム・ポリシー) 及び 「入学者受入れの方針」 (アドミッション・ポリシー) の策定及び運用に関するガイドライン」 文部科学省.
- 中央教育審議会 (2020). 「教学マネジメント指針」 文部科学省.
- 石井英真 (2015). 『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影—』 日本標準.
- 灘井雅行 (2020). 「第6回日本薬学教育学会大会開催にあたって」 (<https://www.jsphe2021.jp/greeting.html>) (2021年2月24日アクセス)
- 佐藤学 (2013) 「教育の方法」 左右社.
- すぎうらまゆみ (2019) 「【授業・研修のレシピ】 シネメデュケーションで“プロフェッショナル”のイメージ化を図る」 ([https://note.com/s\\_mayumi/n/na95b89532872](https://note.com/s_mayumi/n/na95b89532872)) (2021年2月24日アクセス)
- 薬学教育評価機構 (2018) 「薬学教育 (6年制) 第三者評価 評価基準」.

ご視聴ありがとうございました。

15